

第 18 回名古屋市交通問題調査会の開催結果について

この度、第 18 回名古屋市交通問題調査会を書面にて開催しました。本会議では 1 件の議題に対する承認と 2 件の報告に対する意見をいただきました。報告に対していただいたご意見は、関係部署等に申し伝えるとともに、今後の施策を実施していく上での参考とさせていただきます。

○議題 1 会長及び副会長の選定について

今回が委員任期開始後、最初で開催する調査会であることから、会長及び副会長について選定を行いました。名城大学の松本幸正教授から、前回も会長を務められ、また交通分野に精通している名古屋大学の森川委員を会長に、高齢社会への対応は重要な視点の一つとなると考えられることから、福祉分野に精通する日本福祉大学の後藤委員を副会長として、推薦のご意見をいただいたことから、以下の推薦案についてお諮りしました。

(推薦案)

役職	氏名	備考
会長	森川 高行	名古屋大学特任教授
副会長	後藤 澄江	日本福祉大学客員教授

上記推薦案の通り、森川委員を会長に、後藤委員を副会長に選定することについて、承認 23、否認 0 となり、本案件は承認されました。

○報告 1 名古屋交通計画 2030 成果目標について

意見内容

<A委員>

・展開 3

都心部の歩行者交通量が顕著に下がっており、目標値に届かないことは大きな問題と考える。実態・原因をデータに基づいて確認し、対策を立てる必要があるのではないか。(交通量調査の時期を変更した、ということは理解できるが、他のデータも用いて確認すべき)ウォークブルシティ、が世界のトレンドであるので、ぜひそこを目指していただきたい。

<B委員>

数値が改善していない指標については今後の対応や改善策が示されるべき。

<C委員>

展開 3 と展開 4 の達成度が目標をかなり下回っている。都心部の歩行者交通量は、他の都市でもコロナ禍前より 10%減は時々見られるが名古屋はそれを大きく下回っている。まちづくりの実績数も市民感覚も低迷している。名古屋はもっと公共空間を活かしたまちづくりに真剣に取り組むべき。

<D委員>

・都市部の歩行者交通量について

「交通量調査の時期を変更したため、昨年度と比べ歩行者数が減少する結果となりました」

と記載があるが、時期の変更と歩行者数の減少との因果関係が説明されていないので理由として不十分と思われる。

- ・歩行者と自転車のそれぞれが、安全で快適に通行していると感じている市民の割合について
昨年度数値と比較し、当初値 39.7%→前年度値 37.8%→現状値 33.9%と数値が減少傾向にあるが、この減少要因について把握しているか。

< E 委員 >

- ・歩行者と自転車のそれぞれが、安全で快適に通行していると感じている市民の割合について
数値目標 2025 年度 40.7%、2030 年度 50%

数値目標をもう少し高めに設定できないか。歩行者の安全は最優先かと思う。名古屋市は道路環境に恵まれているので、歩行者の 100%に近い方が安全に感じる道路空間を目指す方が良いかと思う（100%は現実的ではありませんが）。名古屋市の道路を歩いていると、あまり自転車政策に力を入れていないように感じるので、歩行者の方が安心して歩けるよう、自転車政策もしっかり取り組むとよいと思う。

○報告 2 4つの展開に基づく取組の進捗状況について

意見内容

< F 委員 >

名鉄は名古屋駅の大規模再開発を全面見直ししたが、事業計画を共に進めていたゼネコンの撤退や工事費高騰により、当初案では事業費が1兆円超に達し、民間単独での負担は困難である。名鉄名古屋駅の機能強化は名古屋市だけでなく広域の自治体にも利益があるため、市は直接の財政支援が難しくても、固定資産税の減免、バスターミナルの受け入れ、土地交換による工事効率化・周辺活性化など、可能な支援を検討すべき。最も避けるべきは「民間の問題」と放置し、利便性向上が不十分なまま建物の老朽化が続くことである。

< G 委員 >

- ・展開 2、展開 3

市内に複数の自転車等のシェアリング設置が進んでいるが、それらの事業者間の連携が十分でない。市が中心となって、連携の機会（会議体）をつくり、データ共有などを進めるべきではないか。SRT の新規導入による効果測定も含め、データ・情報技術を用いた連携・情報共有などを考えるべきである。

< H 委員 >

2025 年度の目標達成は現状では厳しく、特に展開 3 の「まちづくりと連携した多様な道路空間の形成」については、社会情勢の変化が利用者行動に与える影響を踏まえ、要因を再分析する必要があります。一方、展開 2 が目標に近づいている点は評価でき、その成功要因を明確にし、停滞する施策へ横展開する方策を検討すべきです。単なる未達報告ではなく、2025 年度に向けて注力すべき施策や軌道修正の優先順位を示した「挽回シナリオ」を提示することを求めます。

< I 委員 >

令和 6 年度の実施状況なので、可能なものはもう少し早めにとりまとめ、この進捗に基づいて構成員で進捗管理を含めて意見交換ができる場があると良い。

< J 委員 >

公共空間すなわち道路を活用したまちづくりの取り組みが乏しい。SRT はようやく稼働するが、まだごく限られた運行であるので、都心部まちづくりと連動させて戦略的に拡充すべきと考える。世界の都市に後れを取って日本も walkable な道路の取り組みが始まっているが、名古屋はその取り組みの兆しも見えていない。

<K委員>

- ・展開1取組②、展開3取組⑤

SRT について、令和8年2月13日に運行開始を迎える現状において、英語の少なさ、映像の見えづらさ、テーブルの使い勝手など、改善が求められるところがあると聞いた。運行開始後、乗客の意見を聞き、随時改善を図って頂くようお願いしたい。

<L委員>

賑わい空間の創出について、特に久屋大通など名古屋の顔となるエリアにおいては、文化の発信拠点となってほしい。賑わいの質が求められると考える。

グリーンインフラが喫緊の課題である。道路空間形成として環境局の取組等記載できるものがあれば追記すべきでは。

<M委員>

- ・展開2取組⑦

昨年度から変更点無しとのことだが、何か進捗を記載いただければと思う。

- ・都市再生完全確保計画等

→少なくとも名古屋駅周辺については令和6年度一部変更されたと聞いている。変更点を記載いただければと思う。

- ・帰宅困難者対策の推進>リーフレットの配布等を行い(中略)普及啓発を実施

→誰に対し配布し(退避施設等管理者向けか。来場者向けか。)、どのような啓発活動を実施したのか、記載いただければと思う。

□その他意見・情報提供等

- ・本年6月から愛知県でパーキング・パーミット制度が開始されるということで、令和8年度の4つの展開に基づく取組(展開3の取組⑥や展開4の取組③)に関連があると思う。
- ・2年連続で、書面開催となっている。次年度は参集開催を検討いただければと思う。